

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870400383
法人名	テルウェル西日本株式会社
事業所名	グループホームサルビア
所在地	〒796-0031 八幡浜市江戸岡1丁目2-9
自己評価作成日	平成21年7月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年7月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

穏やかな時間の流れの中でささやかな出来事に感動できるような日々をおくっていただくことを大切に考えたい。真夏の昼下がりにお爺ちゃんがおステテコで縁側に座り、うちわ片手にポーッと外を眺めている光景をイメージしている。
本人の気の向くままに、のんびりと過ごしていただける雰囲気づくりをしていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族会総会の後は、職員も参加して懇親会をされており、その席では、ご家族のいろいろな思いを聞かせていただいたり、日々、事業所で行う支援について感想や意見をいただいている。管理者は、「ご家族をお客様ではなく、利用者と一緒に支えていく存在」として、協力し合いながら取り組みをすすめておられる。
朝食と月・金曜日の昼食は、事業所で作るようになっており、「おいしい魚が食べたい」という利用者の希望に、八幡浜の市場で新鮮な魚を購入し調理されることもある。入院中、点滴のみだった方が、事業所で少しづつ口から食べられるよう支援し、現在は、自力で食事ができるよう回復されたという事例がある。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目: 30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目: 28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームサルビア

(ユニット名) さくらんぼ

記入者(管理者)

氏名 水口 泰如

評価完了日 平成 21 年 7 月 1 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員全員に浸透しており、理念に基いた状況判断が的確にできるようになってきた。	
			(外部評価) 「あたりまえ」という理念の中には、地域と「あたりまえ」の状態を築き、利用者の生活も「あたりまえ」を大切にというように、いろいろな思いが込められており、管理者は職員に、判断に迷った時には、理念に立ち戻り決めることができるよう、日頃から話しておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 住宅が少なく、町内会も無く、地域との付き合いが希薄な地区であるが、これまでに実施した交流事業のかいあってか、ご近所の方々と顔見知りになり、通りすがりに気軽に声をかけて下さる関係になってきた。	
			(外部評価) 公民館で行われるバザーに利用者と参加されたり、事業所の研修会を公民館で開催し、地域の方達とともに認知症の勉強をされている。又、地域祭や小学校の運動会を見学されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 8月の防災訓練を機に地区住民の方々との交流を深めながら地域のニーズを探り小さな事から取り組んでいきたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議のメンバーにはホームの現状を十分に理解して頂き且つ、適切な助言を頂いている。また、地域の思いを代弁して下さり当ホーム進むべき道、地域での役割を示唆していただいている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>会議時、「会議参加の意義」について出席者から質問があり、事業所では今後、民生委員の方等、事業所の行事に協力をいただけるようお願いをされた。民生委員が集まる会議に出向き、10月に予定しているホーム5周年記念の餅つき大会へのお手伝いをいただけるよう、呼びかけることになっていた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>市の担当者にも運営推進会議のメンバーに加わって頂き助言頂いているが、それ以外にも困難事例の相談や入居相談等何時でも丁寧に好意的に対応して下さっており、大変心強く思っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員が、市の要介護認定審査委員として市と連携されている。市の担当者には、申請書類等の書き方等を教えていただいたり、電子メールで日頃からケアに困ったこと等があると相談しながら支援されている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>どれだけ大変でも絶対に身体拘束を行ったことはなく、入居前に身体拘束を受けておられた方は入居と同時に拘束を解くようにしている。開所以来今日まで身体拘束は行っていない。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ヒヤリハット記録をもとに、身体拘束をしないケアについて話し合われている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待若しくはそれに近い状況を創ってしまうことは経営者や管理者の責任である。高齢者虐待防止法云々ではなく『人としてあり方』から学ぶべきと考え、職員会やミーティングはもとより、日々の会話の中でも『良識ある一社会人の育成』ということを常に念頭におき職員に助言・指導を行っている。しかしながら、現在の介護報酬では必用人員を確保するのが精一杯の状態であり、採用についても依然として人を選べない状況下にある。虐待とは直接関係は無いと思うが、職員の資質は大きく影響する。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在1名の成年後見制度利用者がおり、今後も利用者の権利擁護のため積極的に活用を考えている。また、この制度利用についての研修会にも参加し、管理者・計画作成担当者のみではなく介護職員にも浸透させている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 定められたことはきっちり行っている。 それらの行為に時間がかかるため重要事項説明書などは入居前に本人・ご家族にお渡しし、熟読して頂いた上で再度入居時に説明している。また外部評価結果表や運営規程・看取り指針等も契約時にお渡ししている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 直接入ってきにくい入居者からの不満等はさわやか相談員さんの意見等で汲み取るようにしており、職員会で検討したり、推進会議の場で発表し、委員の方々に助言を頂くようにしている。また、その内容は推進会録等に記し、いつでも閲覧できるようにしている。また、定期的に行っている家族会や家族交流会では、かしまった意見しか聞けないことが多いため、職員・家族との懇親会を持ち、何でもものが言える関係構築に向け努力している。 (外部評価) 家族会総会の後は、職員も参加して懇親会をされており、その席では、ご家族のいろいろな思いを聞かせていただいたり、日々、事業所で行う支援について感想や意見をいただいている。管理者は、「ご家族をお客様ではなく、利用者と一緒に支えていく存在」として、協力し合いながら取り組みをすすめておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>管理者は職員会やミーティング・日常会話等から職員の意見を聞き、逐一支店担当部長に報告するようにしている。また、四半期に1度施設長会議が開催され、西日本の全事業所施設長や管理者が一同に会し、介護事業における課題を検討すると共に汲み上げた職員の意見を提案・要望している。それにより職員の待遇面等改善しつつある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>管理者や主任が職員の意見を聞き、実現できるように努力されている。年に4回、施設長会議が行われており、内3回はテレビ会議で、事業所の要望等を挙げておられ、職員増員や残業手当等、業務の改善がなされている。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>担当部長が月一回来所し、管理者や職員の意見を聞く機会を作ってもらっている。また、ハード面における相談には速やかに対応してもらっている。 運営者とは担当事務員を介し、毎日のように連絡を取り合い、必要な情報を上げている。また、職員の努力が報われるよう、資格取得者には手当を支給したり、定期的に勤務評定を行い、昇給や昇格を行っている。</p>	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>運営者は管理者の意見を正面から受け止め、特に人材育成については全スタッフに積極的に研修受講を勧めている。また、自主研修や資格取得に向けての研修希望者には勤務調整を行う等の配慮を行うよう管理者に指導されている。 本年1月には地区公民館をお借りして、外部講師を招いた職員研修会を行った。近隣住民や関係者にも参加いただくことで職員の意識の高揚が図れた。</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>GH連絡協議会や市主催のGH連絡会に参加することで交流できたり、互いに運営推進会議のメンバーであったり、特に近隣のGHとは充分に交流できているため互いに良い刺激になっていると思う。また、同社の介護事業所間でも四半期に1度交流を持ち、相互研修を行っている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>入居前には必ず本人宅(入院・入所中の方はその滞在先)を訪問し、時間をかけて話をじっくり聞くようにしているが、一回や二回の面接で信頼関係を築くということとは不可能に近い。また、入居前には本人・ご家族の事前見学を原則としており、入居時の不安を少しでも軽減するよう努めている。殆どの場合、信頼関係作りは入居後から始まるため、じっくり時間をかけニーズを探るしかない。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初回の入居相談時には遠慮もあり、ご家族もなかなか詳しい話をし下さないことが多いが電話や面接を重ねる毎にリラックスした雰囲気作りを行ったり、一回の面接時間をできるだけ長く取り、ご家族に在宅介護の苦労話等十分に吐き出して頂くよう努めている。	
17		初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初回の相談時に本人・家族のニーズを見極め、適切なサービス利用ができるよう居宅のケアマネのつもりで相談を受けるように心掛けている。また、本人の心身状況により当ホームで提供できるサービスとできないサービスがあることを明確に説明している。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者と共に感じ、共に涙する関係ができている。新入職員もそれを肌で感じてくれていると思う。利用者と一緒にできる事はなるべく一緒に行うようにしている。また、利用者に任すことのできることに限っては、なるべく見守りだけに止めている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員は入居者本人に第二の家族として接しており、ご家族とはその立場で共に支援していく関係ができている。面会終了後には、『入居者への思い』のみならず、ご家族の生活状況等様々な話題でお話しさせていただくこともある。そういう時間を大切にするように心がけている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人やご近所の方々が面会に来られた際には再来をお願いしたり、茶菓子をお出しするなどして、ゆっくりと歓談して頂ける配慮を行っている。また、来訪者と一緒に写真を撮り、毎月の『お便り』でご家族に配信している。 (外部評価) ご家族と外出された際に、ご自宅に帰られたりお墓参り等されている。	利用者がこれまで大切にされていた人や思い出の場所、なつかしい場所等、ご家族とともに探り、支援につなげていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者個々の性格やその時の状態を考慮し、必要により入居者同士の会話の仲介を行ったり、お茶の時間には職員も一緒にテーブルについてその場を盛り上げるなどの雰囲気づくりをしている。また、精神状態が不安定な方の暴言等に他者が怯えないよう都度フォローして関係を守っている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居された入居者のご家族さんに運営推進会のメンバーや家族会顧問に就任して頂きアドバイスを頂いている。また、心強い協力者としてホームや家族会を支援していただいている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で把握に努めている。リラックスした時間帯に利用者と思慮疎通をはかり、入居者の思いや希望を汲み取っている。	
			(外部評価) 日々の関わりや夕食後のゆったりした時間等に、利用者からお話しや思いを聞き取っておられる。職員それぞれ利用者個々のことをよく知っておられる。	これまでのことや思い、意向等、利用者個々の情報を蓄積し、その人らしい暮らしを続けるための支援につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居者本人から日常会話の中で情報を得よう常に心がけている。また、情報が得にくい重度の方にはご家族から情報を頂き対応しているが十分に把握できていない。サービス利用の経過等は入居前の担当ケアマネジャーや包括支援センター職員より情報を頂いている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者個々の生活リズムや心身状況に応じた援助ができるよう常に心がけている。『本人の気の向くままに』が当ホームの援助の基本であるが、総合的に全て把握できているとは言えない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員全体で取り組むが、担当職員を主にケースカンファレンスを開催し意見を得ている。面会時のご家族思いや評価、担当職員の思いが反映されたプラン作成ができるよう心がけている。	
			(外部評価) 日頃、ご本人がよく口に出される言葉等をもとに介護計画を作成しておられ、ご家族には原案の説明をし、意見をいただいて介護計画を作成されている。「プラン管理表」に沿って担当職員を中心に認定更新時・6ヶ月・3ヶ月で評価を行い、計画の見直しが行われている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケース記録用紙は連記方式ではなく、1日毎に記録をする形式をとっており、上部に援助目標をプリントし、達成状況を記している。また、月間記録には評価に活かす事ができるように月毎の様子を纏めるようにしている。 職員が休みの日は日誌で確認を行い勤務に就くようにしている。	
			(外部評価)	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 入居者のご家族が宿泊されたり、一緒に食事や入浴をして頂いたり、できるだけご家族の要望に応じている。 入居者の状況に応じて通院等の支援を行い、入居者やご家族の満足が得られるように努めている。	
			(外部評価)	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 月1回さわやか相談員さんが訪問され、ホームの素顔を視て頂いている。また運営推進会議のメンバーである民生委員の方々も家族交流会にお誘いし参加頂いている。 消防署とは防災訓練を通じて種々のアドバイスを頂き、地域交流にも尽力頂いている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価) 本人・ご家族が希望する主治医となっている。2箇 所の医療機関から月2～3回往診を受けており、それ 以外の医療機関への定期受診については原則ご家族に お願いしている。但し、緊急止むを得ない場合に限り 職員が対応するようにしている。また、利用契約時に その旨を説明し同意を得ている。</p> <p>(外部評価) 現在は、往診してもらえる医療機関を望まれる方が多 い。歯科の訪問診療も受けられ、その時間に合わせ て、ご家族と管理者と一緒に説明を聞かれている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価) 看護職員を配置しているので、何かあれば連絡をと り医療面での相談・助言等の対応ができるよになっ ている。また、地域医療機関の看護師とは気軽に相談 できる関係を築いている。 往診時には同行看護師と情報交換や相談ができるよ う努めている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院された時には管理者や担当者が主にお見舞いに 行き、本人の様子観察を行うと共に医師や他の医療ス タッフと情報交換を行い、早期退院に向けての援助を 行っている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 当ホームの方針を家族会を通じて説明を行い終末期 のケアの意思確認を行っている。協力医をはじめ、往 診対応をして頂いている医療機関ともGHの実情を充 分に理解して頂いているため協力的に対応して下さっ ている。現在のところ終末ケアを行った事例はない。</p> <p>(外部評価) 新たに事業所で看取りの指針を作成し、ご家族に説明 をされたが、今のところ希望される方はいないよう である。今後、看取り支援を希望された場合には、医療 機関やご家族と協力し、支援する方針である。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成しているが定期的には実施できていないのが現状である。地域の防災訓練に参加し、習得した応急手当のテクニック等を職員会で実演したり、ケースカンファレンス開催時に実際の事例を通して職員に説明している。 1名の入居者が呼吸困難・心停止状態が頻発し、救急搬送を繰り返されたことがあり、その対応が結果的に職員の実践的学習の場となった。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 幸いにも非常通報後消防署から2分で到着できる場所に位置しているため助かっている。 消防計画のマニュアルに従い、定期的により実践的な非難訓練を実施している。公民館で行われた震災訓練にも地域の一員として参加した。 『地域との協力体制を築く』とあるが、地域付合いはギブアンドテイクの関係で成り立っている訳であり、災害対策としてではなく一地域住民同士の関係構築が最優先されるべきであると思う。 (外部評価) 年に1回は、消防署の協力を得て避難訓練を行っておられる。又、事業所独自でも避難訓練を実施されている。通報後2分で消防署から駆けつけてくれるようになっており、「その間にできること」についてアドバイスをいただいた。火災の場合は、とにかく建物から外に出ることを考え、2階からは階段を使って利用者を下ろす訓練をされている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に入居者の立場に立ち、親しみの持った口調で声かけを行い、丁寧な対応ができるように心がけている。個人的な相談等については、自室や他の利用者から閉ざされた場所で行うようにしている。 個人情報、外部に漏らすことのないよう、日々注意をするとともに職員会等で徹底している。 (外部評価) 法人全体で個人情報の管理は徹底されており、シュレッダーやパソコンの情報もチェック機能を高めておられる。事業所便りの写真掲載については、ご家族に了解を得ている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) できるだけ個別で会話する機会を持ち、入居者の希望(思い)を汲み取って満足して頂ける援助が行えるよう努めている。また、満足して頂けなくても、せめて納得して頂けるよう日頃から信頼関係を築き、誠心誠意対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員側の都合を優先させることは決していない。『本人の気の向くままに』が当ホームの援助の基本である以上、食事・入浴・入眠時間等利用者のその日の気分に合わせている。深夜に覚醒された方についても飲物やおにぎり等を摂って頂き、口渇や空腹を満たして頂いている。 以前は職員の勤務人数の関係で、ご本人の希望時に買物や外出が困難なこともあったが、現在は職員を増員して、できるだけ入居者個々のペースを尊重した支援ができるようにしている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分で衣類を選べる方が少ないため季節に合った衣類を職員が選びお勧めすることが多い。 出張美容が月1回来ており、それを利用されたり、ご家族が面会時に毛染めをされたりしている。 外出時には本人やご家族が化粧を希望される方がおられ、職員が手伝っている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 生で食する物以外の食品の皮むきや切り込みを行って頂いたり、下拵えや下膳・食器洗い等の手伝いをして頂いている。 職員も同じテーブルで同じ時間に同じ物を食べながら、会話を楽しむようにしている。また、食材の産地の話や味付けの評価等も同時に行っている。 地域性を活かし、月に1・2度漁師から直接買い付けたり、早朝に朝市場に出向いたりして新鮮なお魚をお出ししている。 (外部評価) 事業所の食事は、業者から食材が届くようになってきている。朝食と月・金曜日の昼食は、事業所で作るようになっており、「おいしい魚が食べたい」という利用者の希望に、八幡浜の市場で新鮮な魚を購入し調理されることもある。入院中、点滴のみだった方が、事業所で少しずつ口から食べられるよう支援し、現在は、自力で食事ができるよう回復されたという事例がある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスよりも基本的に食べて頂くことを最優先しており、しっかりと味付けにしている。医師やご家族より特別指示が無い限り、好きなだけ食べて頂いている。水分摂取も、定期的水分補給のほか、TV観賞中や歓談時に飲み物をお出ししている。夜間覚醒時にはお茶やポカリをお勧めしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 強い拒否がない限り、毎食後口腔ケアを実施している。 歯科治療が必要な場合は協力医の往診で対応できる体制をとっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			尿意・便意の曖昧な利用者については、排泄パターンを把握し、誘導する事でトイレでの排泄を促している。	
			(外部評価)	
			「排泄チェック表」を付けて、利用者個々の排泄のパターンを把握し、誘導にてトイレで排泄できるよう支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			食事は野菜を多く摂れるよう調理の工夫を行っている。また、水分をしっかりと摂って頂くため夜間覚醒時やテーブルに着かれた際にはお茶やポカリをお勧めしている。 運動不足にならないよう散歩の声かけを行い、動いていただくようにしている。	
			(外部評価)	
			職員が2名以上いる場合は希望があれば、いつでも何回でも入浴して頂いている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			職員が2名以上いる場合は希望があれば、いつでも何回でも入浴して頂いている。	
			(外部評価)	
			回数や時間等、利用者の希望を聞きながら支援されている。体調や状態に合わせ、介助や見守りをされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			なるべく日中は活動して頂くようにして生活のリズムを整えるようにしているが、生活習慣もあり本人のペースで生活して頂くことを基本にしている。疲れておられる時などは自室に誘導し休んで頂く等配慮を行っている。夜間睡眠時には特に室温管理に注意をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ケース記録綴に処方箋と効能書きを閉じ込んでいるので、いつでも確認できるようになっている。また、処方に変更になった際には主治医や薬剤師・看護師に説明を受け、確実に申し送りを行い、職員に徹底している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ガーデニングや菜園がお好きな方には水やりや、草引き等の手入れを積極的にして頂いている。また、野菜づくりのノウハウを職員に厳しく教えて下さる入居者もおられる。収穫日を指折り数えて待たれている姿は実に微笑ましい。 誕生会は主人公の希望を汲み、好みの食材を提供し、また、お祝いのお品も用意しております。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 面会に来られたご家族や友達と一緒に外出して頂くことはあるが、外出希望のあった方については、その時の心身状況や気象状況を踏まえ、職員が引率して買い物等に出かけている。以前は日常日中でもユニット単位での外出は可能であったが、外出時に車椅子が必要な方が増加したため、3人の職員では一度に入居者9人の外出支援が困難となってきたのが残念である。現在は小グループで数回に分けて実施している。 (外部評価) 夏の暑い時期には、散歩や買い物は夕食後に出かけるようにされている。2階のトイレの窓から菜園を見て、降りて来られる方や、ご自分が車椅子でちょっと庭に出て過ごされる方もいる。	利用者やご家族とも相談しながら、ご本人が行ってみたい場所等を探り、出かけてみるような機会をさらに増やしていかれてほしい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物に行った際には自分で管理できる入居者は自分で支払いをして頂いている。 ホームの食材や日用品を購入する際には入居者の散歩を兼ねて近隣のスーパーやドラッグストアへ出向き、買い物をを行うことで気分を味わっていただいている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 直接電話をかけた、手紙を書いたりされる方は少ない。但し、その代行業を希望される方はおられるため、その都度対応している。また、その意思表示ができない方については意を汲み取り、面会要請の電話を職員がかけることはある。家族からの電話は必ず入居者と代わり、話して頂くようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>手作りの座布団カバーや暖簾等を作成し、使用している。 観葉植物を置いたり花を生けたりと家庭的な雰囲気が出るようにしている。 トイレ等解らない入居者は必ず職員が見守り誘導を行い不安を招かないようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関横にはゴーヤの日よけが青々と繁り、玄関や廊下には観葉植物が飾られている。菜園には、ミニトマト・オクラ・なす等が実っていた。利用者が場所を分かりやすいように、トイレには便所と書かれたのれんが下がり、電気を付けてトイレと認識できるようにされている。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ホールにはソファを配置しており入居者や面会者が過ごすことができる場所を確保している。玄関横には長椅子を用意しており外気浴等を楽しむ事ができる。 テーブルの席も食事の際は自然と決まってくるが、それ以外は気の合う者同士が横に座り会話を楽しんでいる。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>できる限り自宅で使用されていた馴染みの家具等を持参して頂き、配置等にも配慮して自宅に近い環境をつくるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室には、利用者それぞれ、仏壇・ソファ・テレビ・植木鉢・化粧品等が持ち込まれてあり、ご家族の写真や似顔絵等が飾られている。遠くからご家族が帰省され、数日間宿泊し一緒に過ごされることもある。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>十分なアセスメントを行い入居者の行動パターンを十分に把握した上で、どの入居者にも安全な環境を提供できるよう心がけている。A氏には安全でもB氏には危険な環境になり得ることを留意し援助を行っている。</p>	